

第44回日本毒性学会学術年会での発表と展示紹介

今年の日本毒性学会では、社内研究の成果の中から3演題を発表します。1つ目は弊社の特徴であるミニプタ試験の基礎データとして眼球の測定値を、2つ目はミニプタとマウスの皮膚ターンオーバーの比較、3つ目は再生医療のガイドラインに記載された免疫不全動物を用いた一般毒性試験と造腫瘍性試験。また、企業展示ではミニプタ試験と再生医療関連試験を中心として弊社の安全性試験を幅広く紹介する予定です。

日程:2017年7月10、11、12日(横浜)

I 演題

- 1.ミニプタ眼球的解剖学的特徴—眼球及び各部分のパラメーターの計測について
- 2.動物種における皮膚ターンオーバーの違いについて
- 3.NOGマウスを用いたHeLa S3細胞の一般毒性試験及び造腫瘍性試験

II 企業展示:ミニプタと再生医療関連試験を中心としたご紹介



アートギャラリー 作品紹介

佐部利典彦アートギャラリー

この4月からご縁をいただきまして、富山県で仕事をしております。岐阜で描いていて煮詰まっていた作品が不思議なことに仕上がってきました。この3点は岐阜の川、空、樹などの自然からインスピレーションを得て描き始めました。制作途中で進まなくなっていました。距離ができたことで、岐阜に対して、いろいろな思いが少し整理されたようです。かつて、故郷を追われてその郷愁を描いていたシャガールの気持ちがほんの少しだけ分かるような気がしています。家族で過ごす時間が減った分、私の日常は味気のないものになっています。娘と散歩をしながら気になる色やかたちを見つける時間もなかなかありません。となれば、また違う作品ができてくるのではないかとも思ったりします。上手に描こうという気はさらさらなく、こう描かなくてはというものもなくなりました。自分のスタイルすら捨てて、どんどん作品が解放されていきます。描き続けるしかありません。



【tree】 F30号 キャンバスに油彩



【sky】 90cm×90cm 綿布に油彩



【river】 60cm×60cm 板に油彩



読者プレゼント

静岡県三島市は、富士山の雪解け水が地下水となり市内各地で源兵衛川、蓮沼川、御殿川、桜川として流れています。その湧き水に鰻を打たせることにより鰻特有の臭みや余分な脂を落とし、全国的に有名な美味しい三島うなぎとなります。この三島うなぎを食べることが出来る、創業120年以上(創業安政三年)続く老舗の「桜家」の「うなぎ蒲焼き2人前」をプレゼントします。「桜家」は、「かるみ」という家伝の味を守り、うちわの使い方、湧水にこだわっています。桜家のうなぎは口に入れるとふわふわあで飽きのこない味です、是非この機会に応募して味わってください。



桜家のHPより抜粋

【応募方法】 弊社HPからご応募ください。
<http://www.nbr.co.jp/>

【締め切り】 次号発刊まで
(2017年秋予定)

●表紙の写真

水門川のたらい舟下り
表紙の写真は、羽島市から西に位置する岐阜県大垣市の水門川のたらい舟下りの様子。水門川は、1635年(寛永12年)大垣藩主の戸田氏鉄(とだうじかね)により大垣城の外堀として築かれ、江戸時代から明治時代にかけて大垣と桑名を結ぶ運河としての役割も持っていました。明治には定期汽船が開通し、大いに栄えたそうです。その後、昭和に入ると鉄道等の陸上輸送網の発達に伴い衰退しました。松尾芭蕉の奥の細道のむすびの地は大垣であり、芭蕉は水門川を船で下り、桑名宿へ向かい江戸に戻っています。現在でも川港であった船町港には住吉灯台も残り、往時のおもかげを偲ばせています。現在は、春には船に乗って川下りをしながら川の両岸から咲き乱れる桜を愛でることが出来ます。また、新緑の頃にはたらい舟に乗って、瑞々しい緑のトンネルを楽しむことが出来ます。たらい舟は、関ヶ原の戦いの際に、石田三成の家臣、山田去暦の娘おあむが、たらいに乗って落城する大垣城から逃げ延びたという「おあむ物語」にみられる逸話にちなんでいるそうです。今では、爽やかな初夏の陽気をのんびりと楽しむことが出来ますよ。一度足を運んでみてはいかがでしょうか。たらい舟は例年4月中旬～5月上旬に体験できます。

大垣城と戸田氏鉄の銅像

編集後記

今回のNBR Timesは、前号に引き続き、弊社の修善寺分室がある静岡県の伊豆を中心に作成しました。関東の方は地理的に近いことからいつもより親しみやすい内容かと思えます。また、20号という節目から、ページ数を特別に増やし、読者プレゼントも三島名物の豪華な鰻としました。皆様楽しんで頂ければ幸いです。今後とも、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

弊社は、HS財団動物実験認定施設です

nbr 株式会社日本バイオリサーチセンター
<http://www.nbr.co.jp/>

〒501-6251 岐阜県羽島市福寿町間島6丁目104番地
TEL 058-392-6222(代表) FAX 058-392-2432

NBR Times

(株)日本バイオリサーチセンターの「今」を発信する、コミュニケーションマガジン

www.nbr.co.jp

July 2017



水門川のたらい舟下り

伊豆の踊り子②

- ・修善寺～下田
- 伊豆の国パノラマパーク
- ・大自然を満喫できる伊豆の絶景ビュースポット

蛭ヶ小島

- ・頼朝を取り巻く悲恋の物語

NBR通信

- ・第44回日本毒性学会学術年会での発表と展示紹介
- アートギャラリー作品紹介
- ・river・tree・sky

- 読者プレゼント
- 編集後記

vol.020

伊豆の踊子②

修善寺から下田まで

前号に引き続き、伊豆の踊子の名所をご案内いたします。

<河津町>

旧天城トンネルから15分程で着くのが河津町。こちらには温泉宿福田屋、ループ橋、河津七滝（かわづななだる）、河津桜など見所満載です。

福田屋は「手拭いもない真裸だ。それが踊り子だった。」のシーンで映画でも有名ですね。

ループ橋は2回転しながら45メートルを上下する道路です。途中にはバス停がありますが歩道はないため、どの様な方が利用されるのか…謎です。

河津七滝は河津川の約1.5kmの間に存在する7つの「滝釜滝（かまだる）、えび滝（えびだる）、蛇滝（へびだる）、初景滝（しょけいだる）、かに滝（かにだる）、出合滝（であいだる）、大滝（おおだる）」の総称です。滝を「タル」と呼ぶのは、平安時代から続いている貴重な民俗語で、水が垂れるという意味の「垂水（たるみ）」がそのルーツです。

河津桜は早咲きの桜で2月上旬から開花し、約1ヵ月咲き続け、開花時期に合わせて河津桜まつりが開催されます。河津町は人口7,500人程度の小さい町ですが、まつりの開催中には80〜90万人の観光客が訪れます。



河津桜



河津七滝（初景滝）



河津七滝ループ橋



河津七滝ループ橋バス停



ペリー上陸記念碑

なお、修善寺と下田には同系列のレンタカー営業所がありますので、行きは車、帰りは鉄道で移動することが可能です。修善寺分室においての際には、スケジュールを1日余分にとり、観光してみても如何でしょうか

伊豆の国パノラマパーク

大自然を満喫できる伊豆の絶景ビュースポット

伊豆の国市に入って空を見渡すと山にかかる長いロープウェイが目に入ります。このロープウェイ（全長1,791m）に乗ると、約7分間で葛城山の山頂（標高452m）にある「伊豆の国パノラマパーク」に到達します。そこは、日本が世界に誇る富士山や駿河湾を一望できる絶景スポットです。今回は、この「伊豆の国パノラマパーク」を散策してきましたのでご紹介させていただきます。

ロープウェイの山頂駅に到着して目に入ってくるのは、圧倒的な高さで堂々とそびえ立つ富士山です。残念ながら今回は、あいにくの天気できれいな富士山は見られませんが、運が良ければ山麓から頂まで美しい山容を見ることができるとのことです。富士山から少し見下げると、視界に入りきれないほどの真っ青な駿河湾が一望できます。パーク内にはこの駿河湾や富士山を見ながら散歩できるコースが設置されています。コースの途中にアスレチックや百体地蔵尊（105体のお地蔵様）、葛城神社、さらには富士見の足湯などがあり、ゴール地点には恋人の聖地として選定された「さえずりの丘展望台」と幸せの鐘があります。また、散歩コースに設置されているボードウォーク（並木道）では、春を過ぎるとアジサイやユリ、秋にはサザンカやモミジに山が覆われるなど、四季の変化により違った景色が堪能できるところも面白いところです。

散策後にパーク内には駿河湾や富士山を見ながら一休みできる喫茶店があります。ここのテラス席で、山、海、そして風を感じながら好物の「おしるこ」をいただき、身も心も癒される至福のひと時を過ごせました。今回は独りで旅しましたが、久々に海を見渡して、地球が丸いことを思い出したり、トカゲを見つけて、「子供のころよく追いかけたなあ」など懐かしさを覚えたり、大自然を身体全体で感じることができました。

「伊豆の国パノラマパーク」は、さまざまなスポットが設置されており、カップルだけではなく、伊豆旅行をする家族も老若男女問わず充分に楽しめる場所です。伊豆を訪れた際には、是非お立ち寄り頂き、大自然を満喫して頂きたいと思います。

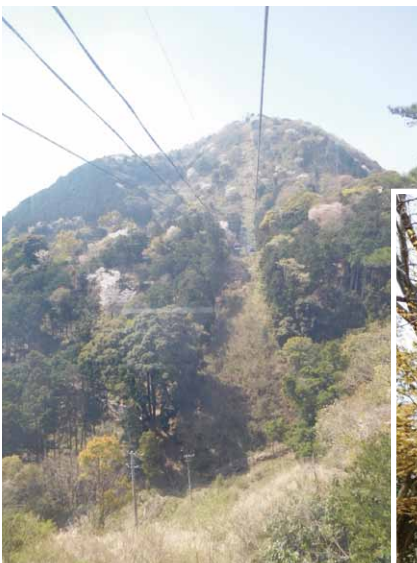


	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
梅												
山桜												
ソメイヨシノ												
ミヤマツツジ												
ツツジ												
藤												
山つつじ												
さつき												
あじさい												
ゆり												
朝顔・夏顔												
キハコモス												

出典:伊豆の国パノラマパークHP



天候の関係できれいな富士山が撮れませんでしたので、写真は引用します。（出典:伊豆の国パノラマパークHP）



葛城山山頂を目指すロープウェイ



散歩コース途中のボードウォーク



恋人の聖地の象徴「幸せの鐘」



山頂のアスレチック

蛭ヶ小島（ひるがこじま）

―頼朝を取り巻く悲恋の物語―

静岡県伊豆の国市にある「蛭ヶ小島」は、平治の乱で平家に敗れた源頼朝が14歳の時に流刑された地として伝わっており、源頼朝はこの地で20年近くを過ごした後に平家を破り鎌倉幕府を開きました。

頼朝はこの地で平家からの監視役伊東祐親の娘である八重姫と出会いました。伊東祐親が大番役として京都へ行っている間に、頼朝と八重姫は結ばれ千鶴丸をもうけました。大番役を終え京都から戻った祐親は、千鶴丸を見て激怒し「親の知らない婿があらうか。今の世に源氏の流人を婿に取るくらいなら、娘を非人乞食に取らせる方がましだ。平家の咎めを受けたらなんとするのか」と平家への聞こえを恐れ、千鶴丸を殺害し、八重姫を取り返し江間の小四郎に嫁がせ、さらに頼朝を討つべく郎党を差し向けました。頼朝は北条時政の邸に逃れ、やがて時政の娘である政子と結ばれました。しかし、八重姫は頼朝のことを忘れることが出来ず、侍女を連れて屋敷を抜け出し、頼朝が匿われているという北条の屋敷を訪ねました。北条の屋敷に着いた八重姫はすでに頼朝が政子と結ばれていることを知り、伊東の屋敷にも戻ることが出来ず、真珠ヶ淵へ身を投げたと伝えられています。

頼朝の妻といえば北条政子を真っ先に思い浮かべると思いますが、親の反対に苦しみ悲恋の中で命を絶った八重姫は地元で愛され、数々の足跡が残されています（八重姫を祀った真珠院（伊豆の国市）、頼朝と八重姫が逢瀬を重ねた日暮神社、音無神社（伊東市））。なお、伊東市では伊東祐親祭り、ミス八重姫コンテストが毎年開催されています。

現在の蛭ヶ小島は、伊豆箱根鉄道「韭山」駅から徒歩約10分の場所にあり、蛭ヶ島公園として整備され、公園内には、蛭ヶ島茶屋（軽食）、石碑、富士山に向かって立つ頼朝と政子の像があります。のどかな田園風景が広がる蛭ヶ小島の地には地元の人達が愛し、受け継がれている歴史が息づいています。



蛭ヶ島茶屋



新幹線の車窓から



頼朝・政子の像



石碑